

## 産業の振興

農業につきましましては、担い手の高齢化や有休農地の増加による営農・環境維持機能の低下が懸念されますので、認定農業者への支援体制を強化するとともに、農業後継者や新規就農者を育成し、また、農業者のある農地の利用を推進します。また、環境にやさしい有機野菜の普及啓発を図ります。

特産振興として、地元の農畜水産物及び加工品への愛着やこだわりを喚起するよう、ひょうご食品認定制度への取り組みや、直売所の魅力化を図り、地産地消を推進します。また畜産振興は、但馬牛ブランドの地位確立のため和牛増頭強化対策を実施します。



災害に強い森林づくりを推進(写真は台風による倒木被害)

農業生産基盤の整備では、住吉農道・西谷農道・万久里一三宅農道や用水路など、県営中山間地域総合整備事業(レインボー南但地区)とこれに連携する

事業を実施し、交流による地域活性化を推進します。また仮称ようか道の駅は、民間資金活用による、いわゆるPFI手法による整備を考えています。

林業は昨年の台風で大きな被害を受けました。災害復旧を優先しますが、除間伐の推進や植樹・林道整備など森林の育成に努めます。

今年4月1日、市内の4商工会が合併し養父市商工会が発足します。商工会等関係団体と連携した取り組みを進め、商工業の振興支援、地域経済の活性化を図ります。

自然・歴史・文化・スポーツなど多様な観光・レクリエーション資源のネットワーク化を図るとともに、誘客PRを推進し交流人の増加をめざします。また、資源を生かした体験型観光も推進します。

## 定住と交流の促進

若者の定着や生活の便利なまちをめざし、定住基盤の充実に努め、まちの魅力向上に取り組みます。

生活基盤の整備では、熊次簡易水道の完成に続いて八チ高原簡易水道の整備に着手し、北近畿豊岡道に伴う浅野浄水場移転工事を進めます。上網場浄水場・大塚浄水場に膜処理ろ過機を設

置してクリプトスポリジウム対策を推進します。局舎整備に伴い、大屋地域の簡易水道中央監視装置を移転します。

また、熊次特環公共下水道が昨年12月に供用を開始し、岩崎小規模集合排水処理施設はこの4月に供用開始となり、市内の下水処理施設整備事業は、個別の処理施設を除き完了しました。

畜産試験場跡地に市民の憩いの場となる公園・ふれあい交流施設に着手し、まず進入路と古墳公園を整備します。

交通基盤の整備では、大江線・養父市場大藪線・左近山玉見線・夏梅工業団地線・若杉線・鶴縄線・葛畑大久保線など生活道路・産業道路となる市道の整備を進めます。また、日高町と連携しトンネルで結ぶ知見八鹿線の整備を推進します。

情報通信の整備では、不通話地域の解消をめざした携帯電話エリア整備事業を進めます。畑地区に基地局を設置するほか、携帯電話事業者に基地局設置を強く要望するとともに、ケーブルテレビの光ケーブル空き芯の活用を検討し、事業者の参画を促します。

大屋地域の拠点となる大屋地域局舎の建設を進めています。9月末の完成をめざします。観光案内所・図書室など多目的スペースを備え、防災拠点としての機能も担います。

また、明石市との交流事業を開始します。それぞれの特色を生かし「海のまち・山のまち交流事業」として、明石市からはスキーや自然体験、養父市

からは明石海峡クルージングなどの相互訪問や、海の幸・山の幸の特産物料理教室などを計画します。

## 保健・医療・福祉の充実

保健・医療では、昨年末に1期工事の病棟部分が完成した八鹿病院の整備を引き続き進めます。手術棟や検査棟・外来施設などを2期工事で建設し、平成19年8月にすべての施設が完成する予定です。

国保事業については、これまでの医療給付から「健康づくり」の推進が必要で、現在取り組んでいる市保健医療計画をまとめ、「養父市健康日本21運動」を開始します。また、八鹿病院・県立但馬長寿の郷等の基幹施設と連携を深めながら、市民の総合的な健康づくりを進めます。

福祉の充実では、知的障害者入所更生施設が完成します。入所者の人権が守られ、個性が発揮でき、安心して生活のできる施設をめざして関係者の皆様と取り組んでいるところです。入所更生施設はもとより、デイサービスセンター・短期入所施設などの機能を持った、知的障害者の総合的なサービスに有効活用しなければならぬと考えております。

高齢者福祉につきましては、年々、介護支援利用者が増え続けています。17年度は介護保険計画見直しの年でもあり、体制の充実に努めながら介護保